

長谷川家住宅の“離れ”を修復しました。

- ・ 長谷川家住宅（国登録有形文化財）の奥庭（東南角）に建つ“離れ”（古民家）を修復しました。この“離れ”は、長谷川良雄（水彩画家）が設計した木造の民家です。
- ・ 棟札によりますと、築造年月は大正 2 年（1913）4 月 28 日です。大工さんやそのお手伝いさんの名前も書かれていました。
- ・ この建物の歴史をたどりますと、長谷川良雄が「長谷川家」の家督を継ぐにあたり、病身の兄長谷川正雄の住まいとして設計し、その父長谷川清之進が建てたものです。
- ・ 正雄の没後、太平洋戦争終結の混乱時（1945 年頃）に、農地改革等によって窮迫した長谷川家がそれを貸付・売却し、人手に渡っていましたが、平成 24 年の長谷川家住宅修復を機に、半世紀ぶりにそれを買い戻し、このたび修復工事を行いました。
- ・ この民家の設計を行った長谷川良雄（1940 年 6 月没）は、1902 年 9 月、創立されたばかりの京都高等工芸学校の第一回入学生でした。フランスから帰国したばかりの浅井忠先生に絵画を、デザイン（図学・設計）を武田五一先生に学びました。この両先生のご指導の成果がこの建物に活かされています。
- ・ 修復工事の際には、間取り、建材、建具などは、極力、残されてきたものを踏襲・使用しました。そのため、長谷川良雄が描いていた雰囲気を残したクラシックで‘おしゃれな’民家として復活しました。

所在地；京都市南区東九条東札辻町 5-1

構造：伝統工法による木造建築物、2 階建

延べ面積：94.6 平方メートル